

2019 Business Report

第18期ビジネスレポート
2018年4月1日 > 2019年3月31日



IP戦略の着実な進展を通じて ソーシャルゲーム業界における 主力プレイヤーとなり、 さらなる成長を目指して参ります。

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに「第18期ビジネスレポート」をお届けいたします。

当期は、既存ゲーム事業においては、15期より取り組んでいるIP戦略（他社の有するアニメやゲームなどのコンテンツゲームを成長の軸とする戦略）の新規タイトルリリースラッシュも一段落し、運用安定化と各タイト



代表取締役社長 内藤裕紀

ルの収益性向上に注力した一年となりました。株式会社バンダイナムコエンターテインメントとの合併会社である株式会社BXDを通じて取り組んでいる新ブラウザゲームサービス「enza」事業においては、積極的な投資のもと、早期の事業安定化に傾注いたしました。

エンターテインメントサービス

他社IPゲームにつきましては、当社の注力タイトルである2014年5月にリリースされたIPゲームアプリシリーズや、2018年11月にリリース2周年を迎えた「ダービースタリオンマスタース」が既存ユーザーを中心に支持を集め好調に推移いたしました。

しかしながら、開発売上がリリースに伴い減少したこと、新規リリースタイトルで売上寄与が限定的となり、一部タイトルが配信停止となったことから、前年同期比で売上高が減少いたしました。利益についても、費用対効果を重視した効率的な広告宣伝施策の展開や全社的なコスト最適化の取り組みによっ



て費用の抑制を図ったものの、新規リリースタイトルの多くで利益寄与が限定的となったこと、新ブラウザゲームサービス「enza」が事業開発段階にあり、同事業向けサービスにおいて費用先行が続いたことから、前年同期比で利益が減少し、損失を計上することとなりました。2020年3月期におきましても、主力事業である当セグメントの売上高、営業利益の増伸に努めてまいります。

広告メディアサービス

広告代理業務の他、次世代の主力事業創出を目的とした取り組みの一環である『DRIP (Drecom Invention Project)』のもと、当社の有するインターネットサービスの知見を活かした新規サービスを試験的に立ち上げ、事業化に向けた試行を重ねました。2018年8月に位置情報と3DリアルマップによるARスマートフォンアプリ構築プラットフォーム『AROW』を発表し、2018年12月には同サービスを利用したゲームアプリ「アニマルランランド」をリリースいたしました。

今後につきましては、新ブラウザゲームサービス「enza」の拡大と、主力ゲームアプリでの既存ユーザーの支持強化を目指したプロモーション施策実施を通じた中長期安定運用、及び2020年3月期中にリリースを目

指す新規ゲームに優先的に経営資源を投入し、事業拡大に取り組んでまいります。

当社は、創業から17年、東証マザーズへの上場から13年を迎えました。創業当時の主力事業であったブログ事業から、現在の主力事業であるゲーム事業まで、時流の変化を機敏に捉え、提供するサービスは大きく変化してきました。しかし、全てのドリコムサービスの根底に流れる「with entertainment～期待を超える」の精神は変わることなく、ドリコムを体現する価値として、息づいています。今後も、ユーザーの皆様への期待を超える、ドリコムならではの独創性と楽しみを感じられるサービス及び事業の提供と創出に取り組んでいきたいと思っております。今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



with entertainment ～期待を超える

ドリコムの強みを活かし 「IP×ゲーム」を軸に事業を展開

「ダビマス」などの主カタイトルで、既存ユーザーの満足度向上により焦点をあてた運用施策をつうじ、長期安定運用を目指します。



『ダービースタリオン マスターズ (ダビマス)』で、2019年3月21日と4月10日の両日、「TCK (東京シティ競馬)」とのコラボイベントを実施。

大井競馬場で冠レースやユーザーによる命名レースなどを開催。4月10日には、最終レース終了後に内馬場のエキサイティングビジョンにて、コラボ記念公式BCの決勝戦を『夢の第13レース』として生放映。



©2016ParityBit



事業拡大が進み、今後はマルチタッチポイント戦略を進め一層の拡大を目指します。

- ◆株式会社BXDが開発・運営を行うHTML5技術を活用したゲームプラットフォーム。2018年4月24日よりサービスを開始し、2019年5月時点で計6本のタイトルを配信中
- ◆「アイドルマスター シャイニーカラーズ」(株式会社バンダイナムコエンターテインメントより配信中) は、2018年8月31日にプレイユーザーが100万人を突破し、2019年4月24日で1周年を迎える
- ◆「プロ野球 ファミスタ マスターオーナーズ」(株式会社バンダイナムコエンターテインメントより配信中) が、2019年2月28日に配信開始
- ◆「NARUTO X BORUTO PROJECT:TRI」(株式会社バンダイナムコエンターテインメントより配信予定) は、2019年中の配信予定
- ◆2019年4月より初のサードパーティータイトルがリリース

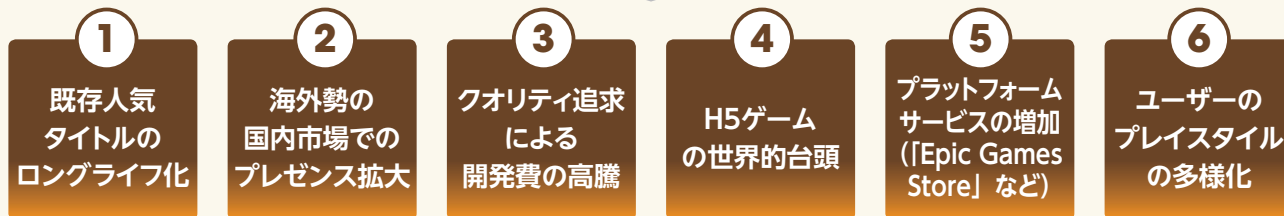


「アイドルマスター シャイニーカラーズ」及び「プロ野球 ファミスタ マスターオーナーズ」は株式会社バンダイナムコエンターテインメントより配信中のゲームです。
「NARUTO X BORUTO PROJECT:TRI」は株式会社バンダイナムコエンターテインメントより配信予定のゲームです。

2020年3月期事業戦略

市場の成長鈍化と成熟化が進む中、ドリコムは既存ゲームと「enza」の両方で変化に柔軟に対応します。

グローバルゲーム市場でモバイルゲームは市場の半分を占めるも、市場の成長は伸び悩み、成熟化が一層進行



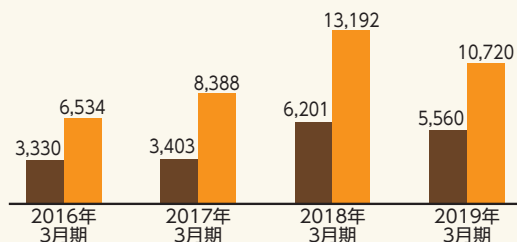
- 新作リリースの減少
- 新規ユーザー獲得の難易度上昇
- 既存ユーザーを重視した運用施策の重要性増

- H5ゲームは中国、米国市場での拡大により一層普及
- マルチプラットフォームの浸透
- サブスクリプション型サービスの台頭

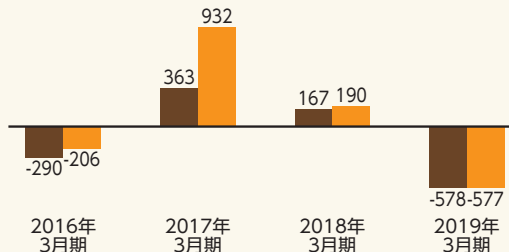
既存ゲーム事業は、既存ユーザーの満足度向上に、より焦点をあて長期安定運用を目指すと同時に、品質を重視した新作の開発に傾注。「enza」はマルチタッチポイント戦略のもと、プレイスタイルの多様化とHTML5のもつ優位性を前面に、更なる浸透と拡大を目指す

連結財務ハイライト

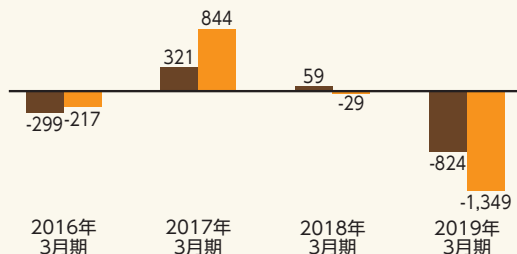
(単位：百万円) ■ 中間 ■ 通期

売上高 **10,720**百万円

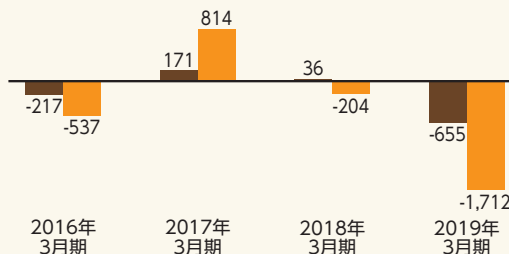
(単位：百万円) ■ 中間 ■ 通期

営業利益 **△577**百万円

(単位：百万円) ■ 中間 ■ 通期

経常利益 **△1,349**百万円

(単位：百万円) ■ 中間 ■ 通期

親会社株主に帰属する
当期純利益 **△1,712**百万円

当連結会計年度におきましては、「ダービースタリオン マスターズ」や、2014年5月にリリースされたIPゲームアプリシリーズが好調に推移したものの、前期中にリリースされたゲームアプリの多くで売上寄与が限定的となった他、開発に際して発生する一時的な売上が、リリースに伴い減少したことから、売上高は前年同期比で減少することとなりました。また費用につきましても、事業開発途中にある「enza」や新規事業開発への積極的な投資を行ったことや、先述の前期中にリリースされたアプリの多くで、リリース直後であったことから運用費が高み利益貢献が限定的となったことから、利益につきましても前年同期比で減少することとなりました。また「enza」事業に関連して持分法投資損失を計上した他、「enza」事業や不採算タイトルへの対応に際して特別損失を計上したことから、経常利益及び当期純利益についても前年同期比で減少いたしました。

以上の結果、当社グループの当連結会計年度の売上高は10,720,399千円（前年同期比18.7%減）、営業損失は577,458千円（前年同期は190,589千円の営業利益）、経常損失は1,349,364千円（前年同期は29,118千円の経常損失）、親会社株主に帰属する当期純損失は1,712,709千円（前年同期は204,002千円の親会社株主に帰属する当期純損失）となりました。

2020年3月期につきましては、既存ゲーム事業での主力タイトルの長期安定運用と開発中タイトルのヒット、及び「enza」事業の一層の拡大に注力し、成長を目指して参ります。

会社情報 / 株式情報 (2019年3月31日現在)

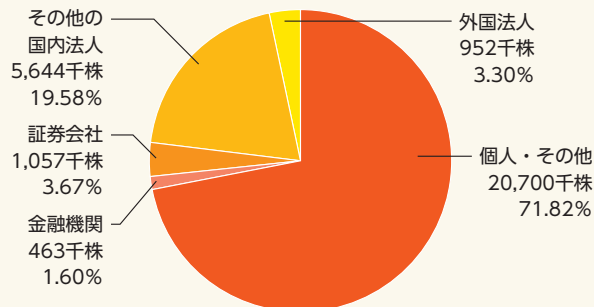
会社概要

商号	株式会社ドリコム
本社所在地	〒153-0064 東京都目黒区下目黒1丁目8番1号 アルコタワー17階
設立	2001年11月13日
資本金	1,715百万円
代表取締役社長	内藤裕紀
従業員数	367名 (連結)
主な事業内容	モバイル/PC向けコンテンツの企画・提供、コンテンツ事業者に対する広告サービス提供、広告収益型メディアの開発・提供
連結子会社	株式会社ドリアップ、 株式会社ドリコム沖縄

株式の状況

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	28,819,000株
株主数	10,547名

所有者別株式数



役員 (2019年6月25日現在)

代表取締役社長	内藤裕	紀
取締役	菅原勇	祐
取締役	後藤英	紀
取締役 監査等委員	青木理	恵
取締役 監査等委員	村田雅	夫
取締役 監査等委員	清水勝	彦

(注) 青木理恵氏、村田雅夫氏、清水勝彦氏は社外取締役であります。

大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
内藤裕紀	9,930,000	34.46
株式会社バンダイナムコホールディングス	5,532,000	19.20
山口憲一	448,900	1.56
資産管理サービス信託銀行株式会社 (信託EIO)	429,000	1.49
廣田証券株式会社	357,678	1.24
DAIWA CM SINGAPORE LTD- NOMINEE YOHEI INOUE (常任代理人 大和証券株式会社)	190,000	0.66
楽天証券株式会社	178,400	0.62
澤由作	165,000	0.57
廣瀬敏正	145,100	0.50
大桑啓嗣	130,000	0.45

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
そのほか必要があるときは、あらかじめ
公告して定めた日

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】
証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人
事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
(郵便物送付先) 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
☎0120-782-031

(インターネットホームページURL)
<https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

【特別口座について】
株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公告の方法 当社のホームページに掲載する。
<https://www.drecom.co.jp/ir/kessan/>
上場証券取引所 東証マザーズ



ホームページのご案内

当社webサイトでは、最新ニュースや様々な情報を発信しておりますので、ぜひご覧ください。

<https://www.drecom.co.jp/>

TOPページ



<https://www.drecom.co.jp/ir/>

IRページ

